■下田歌子　　歌人，教育家。宮中女官出身で，良妻賢母型の女子教育につとめ，{実践女学校}創設し，愛国婦人会長にも。
しもだうたこ
開国開港・・1854＝　　美濃国恵那郡岩村城下で，藩主松平家の家臣平尾じゅう(金へんに柔)蔵の長女に生まれる。幼名は鉐。

_祖父が幕末の進歩的な儒者東条琴台という，代々，漢学者で国学者の勤皇の家風で，
蕃書調所・・1857＝ 3歳：父が，将軍徳川家定がアメリカのハリスの圧力に屈したのに反発して，蟄居となり，収入がなくなる。
五ヶ国条約・1858＝ 4歳：**_早くから学問や詩歌を好んで神童といわれ，元旦に，最初の和歌を詠んで，傑作とされている。**
畑仕事を手伝いながら，
桜田門外変・1860＝ 6歳：藩の大野鏡光尼に国文学を，父から漢籍を学ぶ。

8月18日政変 1863＝ **9歳：**
禁門の変・・1864＝10歳：父が赦免され，藩校文武所{知新館}に教えに出るが，
明治維新・・1868＝14歳：鳥羽伏見の戦勃発に対する藩の危機感の無さに，父が，藩主に無断で，同志に，朝廷に訴える手紙を持たせたことが露見，閉門になってしまう。維新となって，藩主は謹慎の身になるも，藩は存続。
初の日刊新聞1870＝16歳：祖父琴台が18年の流罪を赦免されて，東京に戻り，宣教師少博士。廃藩置県目前になって，父も赦免。
廃藩置県・・1871＝17歳：父が宣教師史生任命されて上京するが，琴台が前年出版した「聖世紹胤録」が発禁になったとの報に危機感を覚え，母，祖母を説得して上京，藩屋敷の御長屋に入る。初めて目にした孫の才能・美貌に衝撃を受けた琴台から，「春秋左史伝」等を学び朗読，耳にした，筋向いの屋敷の主で大納言徳大寺実則は感心しきりであったという(翌年，皇后歌会で本人と同席)。**_かねて尊敬する八田知紀に入門して和歌を学び，**
学問のすすめ1872**＝18歳：**祖母・母・弟も上京してきたが，琴台の著作問題で，父も一時差し止めとなり，困窮すると，凧店で絵を描いて家計の足しにするほどの才覚。徳大寺が宮内卿になって1年後，西郷隆盛の剛腕で女官が一斉に入れ替えになったことで，すでに才女の聞こえが高かったことから，**＊八田の推挙に，高崎正風，歌道文学御用掛福羽美静ら異存なく，宮中の女官になる。天皇の寵愛を受ける典侍のことを知り，自らはそうでなく，才能で生きると決意，その才能に嫉妬する女官らの嫉妬を受けるが，きちんと見てくれていた老女官の言葉に救われ，皇后の歌会に出席を許されるや，たちまち認められ，歌子の名を賜り，以後，皇后の歌のお相手になる。すると，女官たちも，手の平を返して，歌を教えてほしいと言ってくるようになった。**
明治6年政変 1873＝19歳：八田知紀が死去。**_御書物掛を拝命し，異例の二等級特進。碩学による皇后御進講の聴講も許される。**
初の民間工場1875＝21歳：**_一等級上がり，権命婦になる。皇后が初めて女子高等師範学校に行啓した際，扈従，返歌の役を見事にこなし，以後，皇后の学事行啓には必ずお供。**
三つの反乱・1876＝22歳：命婦十等に昇進。福羽美静や，この年，御歌掛になった高崎正風からは，長く大事にされるが，
男子とも臆することなく歓談することから，あらぬ憶測をたてられ，とくに，やっかむ男子から，様々な形で，妨害されることにもなるが，井上馨や徳富蘇峰らからは，大臣にもなる器であると評価される。
琉球処分・・1879＝25歳：尊敬していた祖父琴台が死去すると，**_長年，父に迫られ続けてきた，剣客下田猛雄と結婚すべく，宮中奉侍を辞す。癌を患う夫の看病に明け暮れるうち，心身衰弱，見かねた父の配慮で，母と伊香保温泉療養，現地で宮中の先輩柳原愛子らに会って回復すると，禅に興味を抱き，宮中で面識あった鳥尾小弥太陸軍中将のもとに押しかけ，結果として，自分本来の，国文学，漢籍に覚醒。欧米系ばかりの私立女学校に対し，**
明治14年政変1881**＝27歳：**伊藤博文，土方久元，井上毅らの懇願で，彼らトップクラスの妻女が下田家に訪れて塾のようになり，
新体詩抄・・1882＝28歳：屋敷を改築して，正式に**＊純日本的教養を与える{桃夭女塾}を開設すると，評判は一気に広まる。源氏物語の講義は絶品で，東京専門学校の坪内逍遥のシェイクスピア講義に匹敵し，この年，7歳で渡米，日本語も忘れて帰国の津田梅子を，伊藤の依頼で英語教師として預かり，日本語や習字を教え，以後，協調。**
秩父事件・・1884＝30歳：華族制度導入に合わせた学校づくりを考える伊藤に求められ，授業の合間にも看病続けた**_夫と死別するや，奏任官という高い地位で，宮内省御用掛に採用されて，華族女学校開設に全面的に従事，**
内閣発足・・1885＝31歳：**_「和文教科書」全十巻を著し，学習院と兼務の谷干城を校長に，開校とともに，幹事兼教授になる。梅子にも教授補で参加してもらう。開校式には皇后が行啓，その後も，度々行啓し，その都度お供。**
帝国大学始・1886＝32歳：「国文小学読本」八巻。**_ついで学監になり，袴を改良した制服はじめ，あらゆる面に奮闘，**
帝国憲法発布1889＝35歳：津田梅子が，再渡米するに際し，辞職を求めたのに，休職扱いとし，
帝国議会始・1890**＝36歳：**幼い二人の内親王の教育掛になった佐々木高行から協力依頼され，文部省の西村茂樹ら洋風派からの反発に，新聞紙上でもあらぬ噂をたてられたりするも決着，ほとぼりを冷ますこともあって，
大本教・・・1892＝38歳：帰国した梅子は，教授となって復職，
郡司千島探検1893＝39歳：**_日本女性による最初の家政学論「家政学」。皇女教育の視察・調査のために，欧米に派遣されるが，**
日清戦争始・1894＝40歳：戦争が始まって，滞在が問題になるも，ロンドン入りした小松宮親王随行の長崎省吾に高く評価され，
日清戦争終・1895＝41歳：1年延長。戦争に勝利したことで，**_ヴィクトリア女王に謁見，気に入られて何度も招かれ，帰国。高等官として，学監兼教授に復職し，一世一代の力作「内親王殿下御家庭教育に関する」意見書を佐々木に提出。**
白馬会・・・1896＝42歳：世相がすっかり変わってしまったことに驚くなか，堀江義子とともに，**_内親王御教育掛になり，正五位に昇叙直後，寄付や教科書出版の赤字，弟の巨額借金で，家財道具一切を差押さえられるが，処分し完済。**
八幡製鉄始・1897＝42歳：その後も，借金続ける弟の，返済の面倒を見続ける。**_{家庭文庫}刊行開始。**
子規句歌革新1898＝44歳：婦人労働，海外醜業婦など下層階級の問題を解決すべく，**_{帝国婦人協会}を創設し，会長，総裁は皇族。**
Bushidou・・1899**＝45歳：_事業を具体化すべく，貧困女性の教育機関{実践女学校}，付属の{慈善女学校}，{女子工芸学校}，付属の{下婢養成所}の同時開設を図り，**
ﾋﾟｱﾉ国産化・1900＝46歳：梅子は退官し，自らの夢{女子英語塾}を創設。
田中正造直訴1901＝47歳：**_最初の卒業生，{実践女学校}では，日本初の清国女子留学生大量受け入れ。{愛国婦人会}設立に参加。**
教科書疑獄・1902＝48歳：この年，国木田独歩は，短編小説「巡査」のなかに，実名で登場させ，好意的に描写。この年，日英同盟ができたのは，歌子がヴィクトリア女王に気に入られたことによるといわれる。
日比谷公園・1903＝49歳：渋谷区常盤松に新校舎を建設，{実践女学校}と{女子工芸学校}は，渋谷の発展に寄与していく。大量に来日するようになった清国留学生のために，別途，規程を設け，赤坂の洋館を分教場にする。
日露戦争始・1904＝50歳：{女子自監修文庫}刊行開始，
日露戦争終・1905＝51歳：山県有朋の画策で，最大の庇護者であった伊藤博文が，朝鮮総督として追い出されてしまい，
満鉄発足・・1906＝52歳：**_華族女学校の学習院女学部改組に当たり，破格の次官級の扱いで学部長に就任，正四位に昇叙するが，**
韓国反日暴動1907＝53歳：{平民新聞}に，"妖婦"の見出しで中傷され，影響された石川啄木も糾弾文を出すなか，山県が送り込んだ**＊乃木希典院長と，意見が合わず，罷免され，上流女子教育からも離脱。以後，{実践女学校}に専念。**
ｱﾗﾗｷﾞ創刊・ 1908**＝54歳：**{東京日日新聞}に，女性で日本一の年収ながら，学校の経営，雑誌の発行などで，借金も多いとの記事。
伊藤博文暗殺1909＝55歳：伊藤博文がハルビンで暗殺される。**_皇室からのゆるがぬ信頼の教育掛も，内親王のご成婚で終わる。**
韓国併合・・1910＝56歳：人気雑誌{冒険世界}の「痛快男子十傑投票当選！」で，政治家の部一位大隈重信17,583票，実業家の部一位雨宮敬次郎などに並んで，番外一番偉い婦人の部のダントツの第一位で，12,375票を集めており，なお，国民的人気。森鴎外も小説「青年」のなかに，好意的に登場させている。
明治天皇没・1912＝58歳：「日本の女性」。天皇が崩御すると，乃木が殉死，複雑な思いにかられる。辛亥革命で，留学生も激減。
ロシア革命・1917**＝63歳：**処女会中央部理事，
本格政党内閣1918＝64歳：頼まれて，財団法人{大日本婦人慈善会}経営の{順心女学校}の校長，
大暴落・・・1920＝66歳：**_{愛国婦人会}会長に就任，女性の国家的自覚をたかめる社会教育活動にも活躍。**
原敬首相暗殺1921＝67歳：
水平社結成・1922＝68歳：**_女子大学創設の構想を示し，**
治安維持法・1925＝71歳：頼まれて，滋賀県の{淡海実務女学校}校長。
円本時代始・1926**＝72歳：**
世界恐慌・・1929＝75歳：働く女性のために，**_{実践女学校}に，付属の夜間女学部を設けるなどしたが，**
満州事変・・1931＝77歳：**_乳がんが見つかり，東京帝大病院で，摘出手術。**
芥川直木賞始1935**＝81歳：**癌が転移，慶大病院で治療を受けながら，一時，帰郷。以後，入院，手術を繰り返しながら，
二二六事件・1936＝82歳：**_車いすで，学校に通い続け，最後の講義の10日後，心臓麻痺で没した。**

仲 俊二郎「凛として～近代日本女子教育の先駆者下田歌子」，平凡社百科事典，「目でみる日本人物百科」，「日本の女性」，